

科目名	地 理 B	学 年	2 年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

現代世界の地理的事象を系統地理的(自然環境や産業、都市などの項目別に追求し各地の地域性を明らかにする)、地誌的(大小様々な地域を多面的・多角的に追求し各地域の特色を明らかにする)に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方(諸事象を位置や空間的広がりで見だし、地域という枠組みで考察すること)を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 到達目標

現代世界が多様な地域から構成されていることを理解する。

世界の多様な地域には類似性がみられ、いくつかの地域に区分できることを理解する。

現代世界を構成する各地域は多様な特色を持っていることを理解する。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

授業にでてきた地名・国名は、必ず地図帳で確認しよう。地理的諸事象が違っていても同じ地名や国名がでてくることがあるが、めんどくさがらず確認することが大切である。地理のおもしろいところは、地域を比較しながら共通点を見つけたり、相違点を見つけたりすることができる場所である。また、地理は空間的広がりの中に規則性がみられたり、傾向性がみられたりするところもおもしろい。さらに、地理は実に現代的・日常的な部分を持つところもおもしろい。地理的事象の変容が目の前に展開されたり、地理的事象を実感できたりするのである。

教科書や副教材のなかにでてくる写真・図表・グラフなどに注目しよう。写真は「百聞は一見にしかず」の言葉どおり、何度地理的事象を説明するよりも写真を見ることにより理解が進む場合が多い。図表・グラフは、地域を比較したり地域の特色を理解するために重要である。

世界の様々な地域の特色を理解するために、テレビ・図書館・インターネットなどを機会あるごとに利用しよう。授業にでてくる地域を多面的に考える補助的資料の提供の場として、前述した情報提供装置・施設・組織などを十分利用することが望まれる。

5 使用教材

教科書「新詳地理 B 最新版」(帝国書院)「新詳高等地図 最新版」(帝国書院)

副教材「 () 」() 「 () 」()

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課 題

A : 十分, 達成できた。 B : だいたい達成できた。 C : 努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元（章，節など）	重点目標
4 ↓ 5 ↓	生活の舞台としての地形 世界の地形環境	特徴のある地形と生活のかかわりの理解 世界の大地形と小地形の理解 地形図を利用した地形の理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 ↓ 7	気候と生活 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活	写真を見て気候を理解 気候の成り立ち、気候区分、植生・土壌を理解 自分たちの住む日本の自然と生活を理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 ↓ 10 ↓	産業の発達と変化 農産物の生産と流通 資源の生産と消費 工業製品の生産と流通	産業と自然のかかわりを理解 世界の農業、その流通、日本の農業を理解 エネルギー・鉱産資源の分布、資源問題を理解 世界の工業地域、日本の工業を理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 ↓ 12	生活・文化の地域的変容 村落と都市 衣食住 消費と余暇行動	伝統的な生活や文化の変化を理解 村落の特徴と生活様式、都市の機能と生活を理解 衣食住の地域的差異を理解 消費と余暇活動の地域性を理解
2 学 期 期 末 考 査		
1 ↓ 3	市町村規模の地域の調査 地域をみる方法 国家規模の地域の調査 州・大陸規模の地域の調査	身近な地域や離れた地域の調査の仕方を理解 地域の見方や位置づけ・スケールを理解 国家を多面的・多角的に考え地誌的に理解 州・大陸を多面的・多角的に考え地誌的に理解
学 年 末 考 査		

科目名	地 理 A	学 年	2 年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方(諸事象を位置や空間的広がりで見だし、地域という枠組みで考察すること)を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 到達目標

現代世界の地域性や動向を作業的、体験的な学習を通して理解する。

現代世界が取り組んでいる諸課題を地域性を踏まえて考え、現代社会の特色を理解する。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

地球儀や地図を活用しよう。いろいろな地名や国名を、地球儀や地図帳を用いて必ず確認しよう。地理は、空間的広がりを大切にする科目なので、地名・国名の位置的確認は重要である。

情報収集能力を身につけよう。地理は、様々な地理情報の収集をし、その資料を整理・分析する作業が必要である。そのために、積極的に図書館・インターネットを利用したり、野外調査で聞き取りをしたりすることが大切である。

異文化を理解しよう。国際化が進む現代社会において、これからは異文化理解を進めていく必要がある。そのためには、いろいろな文明の成立やその中に暮らす人たちの価値観の成立を謙虚に学ぶことが必要である。かたよった知識や見方で世界をみるようになると、特定の地域や国の人々に対する差別を助長するようになるからである。

身近な問題に興味・関心を持とう。地理は、生活に身近なところに位置する科目である。常に、自分の身の回りの自然環境とか生活環境とかに気を配っておこう。そして、テレビのニュースや毎日の新聞紙上をにぎわしている話題に対して自分なりの答えを考えていくようにしてほしい。地理で取り上げる地球的課題と結びついている場合も多い。

5 使用教材

教科書「地理 A」(東京書籍)

「新高等地図」(東京書籍)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 ~ 5	球面上の世界と地域構成 結びつく現代世界 多様さを増す人間行動と現代世界	正しい世界像を理解 様々なもので世界との結びつきが強いことを理解 現代世界の特徴を理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 ~ 7	身近な地域の国際化の進展 世界的視野からみた自然環境と文化	身近な地域の国際化の実態を理解 自然環境と人々の生活・文化を理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 ~ 10	諸地域の生活・文化と環境	異なる地域で生きる人々の生活・文化を理解 (北アメリカ、ヨーロッパ、西アジア・北アフリカ、南アジア、オーストラリア)
2 学 期 中 間 考 査		
11 ~ 12	近隣諸国の生活・文化と日本 さまざまな地球的課題	近隣諸国と日本との共通性・異質性を理解 人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題、都市問題、環境問題を理解
2 学 期 期 末 考 査		
1 ~ 3	地域から見た地球的課題 地球的課題をめぐる国際協力と日本	地域により異なる地球的課題を理解 課題解決に向けた国際協力の必要性和日本の関わりを理解
学 年 末 考 査		

科目名	地 理 B	学 年	2 年	コース	全	単位数	3	担当者	
-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境及び社会環境と関連付けて理解させ、世界と日本を比較し多面的に考察させることによって、地理的な見方や考え方(諸事象を位置や空間的広がりで見だし、地域という枠組みで考察すること)を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 到達目標

様々な地域から構成される現代世界の特色を、地域性を考えながら理解する。
世界の人種・民族及び人間の生活・文化の特色を、国家と関連付けて理解する。
人間を取り巻く環境の多様性について理解する。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

地理は、「地図に始まり地図に終わる」といわれる。2年生のうちに、授業の時にでてきた地名や内容を地図帳で確認するようにしよう。

地理は、たくさん地名や国名がでてくる。しかし、それらを網羅的に暗記する科目ではない。それらを地理的事象に関連付けて正確に整理し、その特色を理解することに注意を傾けてほしい。地理のおもしろさというのは、距離の離れた地域同士で共通点を見つれたり、共通点を持つ地域と思われたところに異質なものを見つれたりすることである。たとえば、ヨーロッパのスペインと南アメリカのアルゼンチンに住む人が似ていたり、同じ南アメリカでも大農園の呼び名が変わったりするところである。地名・国名は正確に覚えよう。地理には似て非なる地名・国名が大変多い。たとえば、土壌において、テラローシャとよぶものとテラロッサとよぶものがある。言葉は似ているが、分布地域や栽培される作物が全く異なっているのである。サブノートを使用するので、必ず授業後復習をし正しく頭に入れよう。

テレビの海外紀行番組や海外を舞台にしたクイズ番組などに興味・関心を持とう。授業でなかなか視聴覚教材が使用できないので、それを補填する意味でも自ら海外の文化・生活に注目して欲しい。

5 使用教材

教科書「新詳地理B 初訂版」(帝国書院)「新詳高等地図 初訂版」(帝国書院)
副教材「地理統計 2003年版」(帝国書院)「最新地理図表」(第一学習社)
「'03 新地理B要点ノート」(啓隆社)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []
課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 ↓ 5	世界を結ぶ交通・通信 現代世界の国家と国家群	交通・通信の発達が、地理的視野の拡大をもたらした地域間の交流を密接にしていること 現代世界の国家、国家間の結合、領土問題などについての理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 ↓ 7	地理情報と地図 地域調査 生活の舞台としての地形環境	地球表面上の方位、位置や時差の理解 世界や日本の諸地域を調査・研究する方法の理解 地形環境の特色と地域的差異や類似性の理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 ↓ 10	世界の気候環境 人間生活と環境	気候環境の特色と地域的差異や類似性の理解 地理的環境の人々の生活へ及ぼす影響や地理的環境への人々の対応の仕方の理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 ↓ 12	人間による環境の改変 人種・民族と国家	人間の側から自然との関係を変容させていることと変容に伴う人間の文化・生活の変化の理解 世界に居住する人種・民族の地域的特色や人種・民族と国家の関係の理解
2 学 期 期 末 考 査		
1 ↓ 3	民族をめぐる問題 世界の人口分布と人口移動 世界の人口問題	世界各地で発生している民族問題の理解 人口分布や人口移動の地域的差異の理解 地域により人口問題が異なっていること の理解
学 年 末 考 査		

科目名	地 理 B	学 年	3 年	コース	全	単位数	文 3、理 2	担当者	
-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	---------	-----	--

1 目 標

世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境及び社会環境と関連付けて理解させ、世界と日本を比較し多面的に考察させることによって、地理的な見方や考え方(諸事象を位置や空間的広がりで見だし、地域という枠組みで考察すること)を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 到達目標

世界の人々の生活の地域的特色とその動向を理解する。

産業の動向が人々の行動や地域の産業、文化などに及ぼす影響について理解する。

世界の諸地域の特色を地誌的に理解する。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

3年次に学習する内容は、2年次のものより分量が多くなる。しかし、めんどくさくならずコツコツと丁寧に確認し整理をしていこう。地名も必ず地図帳で確認し、たとえば、ヨーロッパなら何ページ、アメリカ合衆国なら何ページということがさっとでてくるぐらいになってほしい。

教科書や副教材のなかの写真・図表・グラフなどに注目してほしい。センター試験は、地理用語を端的に問うような問題は少ない。問題にした地域に最も近い風景やものをいくつかの写真から選んだり、図表やグラフからその動向を考えどの地域・国に該当するかを答えさせたりすることが多い。特に、先進工業国と発展途上国については、どの項目についても違いが明瞭なことが多いので整理をきちんとしておく。

とにかく、授業を大切にしてほしい。家庭で地理を学習する時間というのはほとんどとることができないのが現状である。授業のなかでポイントとなる事柄をしっかりと押さえておくことが、センター試験やその他の試験を解く場合に大切なのである。

地理は、現代の問題と関連が深いので新聞を読むようにしましょう。たとえば、今も紛争やテロが絶えないパレスチナ問題なども取り上げられることが多い。授業であまり理解できなかった場合でも、新聞の解説が理解の手助けとなることもある。

5 使用教材

教科書「新詳地理 B 初訂版」(帝国書院)「新詳高等地図 初訂版」(帝国書院)

副教材「地理統計 2002年版」(帝国書院)「最新地理図表」(第一学習社)

「'02 新地理 B 要点ノート」(啓隆社)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課 題

A : 十分, 達成できた。 B : だいたい達成できた。 C : 努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 ↓	農業地域の形成と変貌	農業地域の特色とその変容の理解
5 ↓	資源・エネルギー産業の形成と変貌	資源・エネルギー産業の地域的特色とその変容の理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 ↓	工業地域の形成と変貌	工業地域の特色とその変容の理解
7	行動圏の拡大と生活意識の変化	世界の人々の消費や余暇に関する行動の特色とその動向の理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 ↓	村落と都市の機能	村落と都市の機能や結びつきなどの地域的特色と動向を理解
10 ↓	世界の都市問題	世界の都市問題とその解決に向けての動向を理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 ↓	世界の諸地域	世界が大小様々な地域から成り立っていることを理解 世界の諸地域を理解 日本の国土の特色とその変容を理解
学 年 末 考 査		
1	復習と演習(センター試験対策)	センター試験等の過去問の演習

科目名	地 理 A	学 年	3 年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

世界の人々の生活・文化に関する地域的特色と共通の課題を理解させ、世界を大小様々な地域的まとまりから考察させることによって、地理的な見方や考え方(諸事象を位置や空間的広がりで見だし、地域という枠組みで考察すること)を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 到達目標

現代世界の特色を地図の活用や地域調査を通して理解する。

自然環境及び社会環境の多様性から、世界の諸民族の生活の特色を理解する。

地域性を踏まえて把握させることが大切な地球的課題を理解する。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

地図帳を開く習慣をつけよう。授業ででてくる地名や国名は必ず地図帳で確認しよう。地図を開いて地名や国名の確認作業を続けていけば、必ずや地理はおもしろいと思うようになること請け合いである。おもしろくなってきた人は、授業だけでなくテレビででてきた地名や国名も確認してみよう。

世界の様々な国の人々の生活に着目しよう。たとえば、食生活をみると、食事にお箸を使う日本・韓国・中国であるが、食習慣に違いがみられる。日本は茶碗を持ち上げて食事をするが、韓国では茶碗は持ち上げなかったり、日本は一人一人におかずがあたるように配膳するが、中国ではおかずは大皿から小皿へ個人が取り分けたりする。また、居住家屋にも各地で違いがみられる。熱帯湿潤地域では高床式住居、乾燥地域では日干し煉瓦の住居、ステップの草原地域では移動式テントという具合である。新聞やニュースに注目しよう。地理は、空間的な広がりや現在という時を大切にする科目である。激動を続ける現代社会の変化を、新聞・テレビニュースなどがはっきりなしに伝えてくれる。地球的課題を問題提起し続けてくれているのだ。そのことを考えていくことも地理なのである。

5 使用教材

教科書「環境と人間 新編地理 A」(東京書籍)

「新高等地図」(東京書籍)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課 題

A：十分、達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元（章，節など）	重点目標
4 ～ 5	地球儀、世界地図で読む現代世界 地図の機能と活用	交通・通信の発達でひとつになる地球を理解 国家と国家間の結びつきを理解 地図の機能とその活用の仕方を理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 ～ 7	生活舞台としての自然環境	世界の地形を理解 世界の気候を理解 世界の自然環境と人々の生活を理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 ～ 10	諸民族の生活・文化と地域性 諸地域の人々の交流と日本の課題	様々な民族の生活・文化を理解 世界の人々の交流を理解 日本の人々の交流と課題を理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 ～ 12	地球的課題の出現とその要因 諸地域からみた地球的課題	人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題、都市問題、環境問題を理解 諸地域の地球的課題を理解
学 年 末 考 査		
1	地球的課題への国際協力と日本	国際協力と日本の課題を理解